

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 英語による授業のみで修士課程を修了できる国際開発戦略コースを充実する	→英語で開講される講義で修了する国際開発戦略コースの学生数、同コースについてのホームページなどによる情報発信の有無	B	B			
2. 国連や関係する諸機関との教員レベルの交流と連携を強化する	→特別客員教員数と開講講義数	B	B			
3. 外国人教員の比率 (現在約20%) を維持する	→外国人教員比率	A	B			
4. 国際公務員を志望する学生に向けた教育プログラムを設置する	→国連ボランティア、国際公務員育成を目的とする教育プログラムの有無	D	D			
5. 外国人留学生を積極的に受け入れる	→外国人留学生数	A	A			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (方針) 身近な問題の多くが地球規模の問題と密接につながっており、それらの解決策を探っていくことがより良い地球社会を築くことを可能にすると考え、「関学総政宣言」として「Think Globally. Act Locally. -今、身近な問題から世界の扉を開く-」を表明している。 (説明) 2010年度から本格運用を開始した学部独自ホームページや学部パンフレットに上記の宣言を明示している。
	★ 小項目 7.0.2
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	11	9	5	8	12	10	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	0	0	0	0	0		・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	15.9	16.4	12.2	21.6	28.6	22.2	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—				
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	1	0	0	0	0		・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0		・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
指標5	海外からの受け入れ教員数			長期	人	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
				短期	人	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数			長期	人	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
				短期	人	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	12名(2010年5月1日時点)の外国人留学生を受け入れている。
その他	

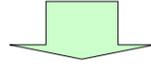
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	ホームページを中心とした国際交流関連の情報発信に努める。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	国連ボランティアや国際公務員育成を目的とする教育プログラムは2013年度実施を目指しており、プログラムの検討のみ行った。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	2013年度の実施に向けて、プログラムの検討だけでなく具体的な実施要領の策定等を進める。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○国際開発戦略コースの設置や国際公務員向けのプログラムなどユニークな取組みは優れています。特に後者は大学院レベルの教育と2か国以上の外国語能力が求められるので今後の検討が大いに期待されます。

【学内委員】

○評価指標データによると、交換による海外からの学生の受け入れ、海外への学生の派遣の実績がないということになりますが、これはどうしたことなのでしょうか。事実を表しているとは思えません。データベースの構築の問題なのでしょうか。

○国際社会との連携が必要になると考えられますが、総合政策研究科は外国人教員が多く在籍しているので、実施できる環境があると思います。今後、より努力を必要とします。

○7.0.2の説明は総合政策研究科の国際交流を説明するには十分とは言えない印象です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--